

## 『祠部職掌類聚 作州波多大法寺一件』

藩法研究会 丹波篠山班

橋本 久  
牧田 勲  
山田 勉

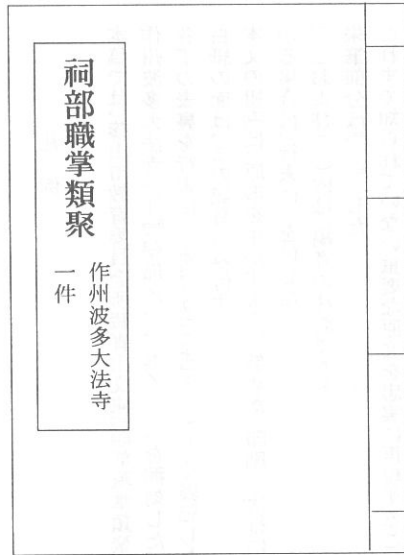
## 凡例

『祠部職掌類聚 作州波多大法寺一件』

- 一 本稿では、篠山市教育委員会所蔵青山文庫『祠部職掌類聚 作州波多大法寺一件』(祠部／一一五／)を翻刻した。
- 一 各丁の表裏を行末に「二〇」「二ウ」「二オ」…の「ごとく」表記した。白紙の面は、この記号のみ付す。
- 一 本文の組みは、原形を生かすように努めた。印刷上次行にかかる場合は、行末に「」を付した。
- 一 「」および( )内は、編者の注記である。
- 一 朱筆部分は『』とした。
- 一 これまで知られていない重要な原文を忠実に再現することを用意したので、今日では不適切なことはがふくまれている

- 一 ことをあえて断つておく。
- 一 本書の複写・翻刻を許可いただいた篠山市教育委員会および関係者各位に、謝意を表する。
- 一 本書の翻刻および解題は、ひきつづき橋本が担当した。
- 一 本文の校正には、小椋孝士氏および牧田・山田の協力を得た。文責は橋本にある。
- 一 本書の学史上の意義については、小椋孝士氏の「教示」による所大である。
- 一 紙数の都合で、解題・補註などは、次号に掲載する。

〔表紙〕



(縦 27.4 cm × 横 19.8 cm)

〔本文〕

〔朱印〕

〔朱筆〕  
〔天明〕  
〔寅年〕  
〔桑原伊豫守掛〕

〔朱筆〕

評定所書留御勘定奉行月番曲淵甲斐守差越〔写〕

〔天明〕  
〔寅年〕  
〔桑原伊豫守掛〕

松平右京亮殿

曲淵甲斐守

〔内表紙〕

『百九拾三番』

天明二寅年内寄合留之内

作 脇皮多大法寺 一件

〔朱筆〕

『寅四月十日』

周防守殿江下ケ物相添伊豫守御直ニ上ル』

〔茶筆〕  
〔桑原伊豫守〕

備中國下道郡辻田村大圓坊外六ヶ寺  
檀家穢多共改宗之儀ニ付、御掛合之趣  
承知仕候、右者天明二寅年御代官万年  
七郎右衛門方ニ而改宗申付候由之儀作州  
大久保村皮多大法寺御箱訴吟味一件  
ニ付、桑原伊豫守御勘定奉行之節、  
伺之上七郎右衛門江致差圖落着申付候  
趣意入組、書取ニてハ委細之儀難  
相分御座候間、其節之一件別紙  
評定所留帳之内老冊掛御目申候、尤為  
写候而者手間取候間、本紙之促懸御目申候、  
御見合相濟候ハ、早々御返し被下候様仕度候、  
戌九月

〔二ウ〕

〔二オ〕

〔二オ〕  
〔二ウ〕

作劬大久保皮多大法寺海順御箱一件  
吟味仕候趣申上候書付

〔茶書〕

〔本マ、  
訴〕

去ル卯五月七日安藤彈正少弼公事方之節  
御渡被遊候作劬大久保村皮多大法寺

『百九拾三番』

海順御箱訴一件吟味之儀、伺之上、其砌

備中國在勤仕候御代官野村彦右衛門・

万年七郎右衛門方ニ而為相糺候處、吟味

相決候趣申聞候、然處寺院之本寺を極

奉伺候儀ニ御座候間、寺社奉行相懸り

被仰渡候様仕度旨、翌辰七月二日彈正少弼

相伺置候處、彈正少弼御勝手方被 仰付

私方江請取、去、丑五月廿八日土岐

美濃守江懸合、取斗可申旨被仰渡

候後、美濃守御役替被仰付候ニ付、牧野

豐前守方江請取候旨申聞候ニ付、同人江

懸合、評議仕候趣、左ニ申上候、

元平岡彦兵衛當分御預り所

當時石原清左衛門御代官所

作劬久米北條郡久米川南村之内

〔三才〕

〔三才〕

〔四才〕

御箱訴仕候者

大久保村皮多

大法寺

海 順

寅二拾壹歳

此大法寺海順儀、假令幼年之節ニ候共  
住職いたし候上者、寺附之印形手放申  
間敷處、村役人江預ケ置候段、不束之至、殊ニ  
無證據疑を以不取レ儀を取受、村役人私欲  
道之趣ニ申立候段、旁不埒ニ付三十日押込可申付  
候哉、

〔四才〕

海順耳不通ニ付差添罷出候

同人兄

同村皮多

喜 平 次

寅四拾三歳

御箱訴ニ認候名前之もの共

同村皮多

元庄屋

四郎右衛門

寅八拾歳

年寄

伊右衛門

『此伊右衛門吟味相濟病死仕候』 [五才]

百姓代

弥 四 郎

寅七拾四歳

此四郎右衛門・伊右衛門・弥四郎儀、人別帳外之もの村内ニ可差置筋無之間、縱令榮順を人別帳書入」吳候様申聞候もの無之候共、大法寺先住貴法倅ニ相違無之、まつ・かちも寺内ニ罷在候へ、取計」支配役所江可相同処、真言宗之名目ニ而相濟來り、妻帯ニ而者齟齬いたし候連、清僧と申立、まつ・かちハ清兵衛家内之人別江加へ、榮順を帳外ニいたし置候段、旁不埒ニ付、四郎右衛門ハ過料錢五貫文」伊右衛門弥四郎ハ同三貫文ツ、可申付候哉、 [五ウ]

板倉隠岐守領分

備中國上房郡真名村皮多

大寶寺

宥 仙

寅五十五歳

此大寶寺宥仙儀、不念之筋も相聞不申候間、無構旨可申渡候哉、

「御箱訴書之趣」

一 諸國一統宗旨改有之候節、近國皮多共類之内ニ

寺無之、因幡・伯耆両国者、從地頭一ヶ寺江毎年米拾式石ツ、差遣、寺屋敷等 無年貢ニ而差置、 [六才]

一向宗新寺致建立候、備中・作劔者、勝手俣坊主を拵、寺建立いたし、大久保村も初而宗判申付候段、村方ニ居合候夫婦暮之浪人、僧ニ相成、清長山大法寺と号、真言宗と名目を立、宗判いたし、其後代々

子孫を以相統仕來、無本寺ニ而宗派之教等無之儀、他國迄も相聞候哉、東本願寺下京都金福寺ハ

玉林と申僧罷越、真言宗之僧妻帯ニ而ハ破戒と申ものニ而有間敷事ニ候、本寺無之故、我僣之

働いたし候間、真言宗ニ而慥成本寺を口頼、向後正ギ訓を相守可申候哉、若又本願寺江帰依之心も

有之候ハ、無本寺之事故、本願寺江申立、下寺ニ可致旨、海順且家江申聞、其砌海順幼少ニ候間、

年寄伊右衛門・四郎右衛門取斗、備中國山名村大寶寺と申本寺有之旨偽申候ニ付、玉林者

致承知罷帰候、海順思案仕候處、海順ハ無妻ニ而候得共、元來本寺無之故、宗派之教曾而不存、

身持不正、何を以坊主と可申哉、且家江何を教可申候哉、如此ニ而施物を請候儀、不本意歟、何卒

本寺を相頼、以來正敷宗門ニ相成申度、且家江致相談、高野山并京都其外真言宗之寺院江罷越、 [七ウ]

本寺之儀相頼候得共、承引無之、殊海順親貴法

妻并大法寺ニ而出生いたし候海順姉かち、弟栄順、

同寺ニ罷在候処、伊右衛門・四郎右衛門取斗を以、海順母并

かち兩人ハ同村清兵衛家内之宗門帳江書入、

栄順者数年来帳外ニいたし置候ニ付、是迄

段々村方人別書入呉候様、申談候得共、不致承知候、

元来本願寺派ニ者皮多下寺数多有之、

妻帯ニ付且家拾五ヶ村之もの共江及相談候處、

拾壹ヶ村者同心いたし、則得心印形いたし、大久保村ニも

同心之もの有之候得共、伊右衛門・四郎右衛門相妨

候ニ付、何連ニも片付不申、殊ニ大久保・弓削・北之庄・

飯岡四ヶ村者、伊右衛門・四郎右衛門取斗ニ而六年以來宗門

帳ニ備中大寶寺末寺と書付差出候儀歟ヶ數候、

其外松平越後守領分五ヶ村・大久保七郎右衛門領分三ヶ村・

内藤山城守領分壹ヶ村・三浦志摩守領分貳ヶ村、〔八〇〕

都合拾壹ヶ村ハ、古来之通無本寺と書付差出候、

右之通、由緒之備中大寶寺を俄ニ〔本〕寺と認、

我俣之働いたし候儀者、本寺無之故与存、且家江

相談いたし、去き・丑八月撰劔富田本照寺末寺ニ

相成度旨相頼、聞届有之候処、伊右衛門・四郎右衛門

兼而相巧、栄順者人別帳ニ記不申、時節を見合

海順共追失心、寺且共大寶寺有仙江相渡可申

心底故、海順參候処、慥ニ相弘有之候処、弥四郎をも

相談ニ加へ、三人申合、海順親兄弟共江不致相談、

〔九〇〕

海順欠落いたし行衛不相知、無住ニ付、大法寺を

大寶寺兼帶いたし度、御料久世（傳）所江兩願

聞濟有之候由、海順罷歸驚入、右役所江相願候得共、

取上無之候ニ付、大坂御代官江願出候処、欠落致し候ニハ

無之候間、失人帳面相消、此儀者相濟候得共、寺且

之儀者、大寶寺隠居寺坏と申、相戻不申候、

右大寶寺も大法寺同様、代々兼帶（傳）ニ而本寺等

無之皮多寺三候、既ニ先住頼栄男子無之、

〔此頼栄と認候ハ、頼恵ニ而御座候〕

はる・かめと申娘式人有之、はるハ大法寺且家吉村

半三郎妻ニ成、先住頼栄相果候得者、無住ニ而

六名村増福寺兼帶いたし候処、拾五年以前讃劔

浪人只今之宥仙入院いたし、か免男子壹人

出生、教導と申、かめハ宥仙妻与及承候、尤海順

村方同様村内之もの家内人別ニ入置、大寶寺

人別内ニ者有之間敷与相察候、外ニ本寺無之故、

隠居寺坏与我俣申、海順且家相返不申、大法寺

四代以前光密相果、娘斗ニ而男子無之、暫無住ニ候処、

且家相談之上、増福寺伴清性、則海順祖父を貰

請、大法寺相續いたし候、依之右増福寺・大寶寺式ヶ寺

先住末寺等之儀、地頭江差出候書付写清性持參

いたし、海順譲り請、式ヶ寺印形有之、慥成證據ニ

候得共、板倉隠岐守領分候間、御預り御代官ニ而食（傳）

難成旨申渡候故、隠岐守役所江相願候、御料他領

数多之内ニ且家入組有之吟味不相成由ニ而

〔一〇〕

對決も不申付、願書相返候ニ付、大坂奉行所江相願候処、近年ハ遠國之願者不及沙汰由ニて

取上ケ無之、江戸奉行所江相願候外無之処、極貧故

路銀等十方ニ暮罷在、不斗存附御箱訴致し候処、

大坂奉行所江呼出、訴状焼捨ニ申付候、<sup>因</sup>共、堂上方

又者江戸奉行所江願儀者勝手次第之旨申渡

候故、乞食いたし候而成とも、江戸奉行所江相願度、〔一〇ウ〕

平岡彦兵衛役所江添翰相願候得共、寺法之儀ニ付、

添翰不差出、いたし方無之、御目付之箱江訴状

入候間、五畿内近国何連之役所ニ而成<sup>因</sup>吟味之上

無本寺真言宗ニ成とも、又ハ一向宗ニ成とも申付、

大法寺且家とも相戻、海順住職いたし度趣相認

申候、

此儀四郎右衛門・伊右衛門・弥四郎吟味仕候処、大久保村

〔一二ウ〕

高式百七拾石有之、一村不殘皮田ニ而

『此皮多ハ穢多之儀ニ御座候』

皮多之内庄屋・年寄・百姓代有之、前々より

取次庄屋等相願候儀無之、御年貢割付皆済

目録も皮多村役人江相渡、御年貢役所江直納

いたし、御廻米も外村々御廻米与積合、諸事

役所之取扱、格別之儀者無之、家数七拾五軒

之内拾七軒ハ同国真嶋郡垂水村真言宗皮多

宝福寺且家、彦軒ハ同国勝北郡真<sup>真</sup>可部村一向宗

〔一二ウ〕

皮多教福寺且家ニ而、其外之もの<sup>者</sup>真言宗

大法寺且家ニ御座候、尤疑とハ不覺候得共、大法寺

開基以来百年ニ者不相成、右開基以前備中國

上房郡六名村真言宗皮多大宝寺且家ニ而死滅

之節者大久保村江大宝寺参り取置候得共、

〔一三ウ〕

道法拾余有之、且用不行届候間、大久保村ニ

寺建立いたし可然旨、大宝寺其節之住持申聞、

相談之上、年曆相知、其頃領主松平越後守

役所江相願、備前國佐野郡伊福村真言宗皮多

常福寺罷在候、生國ハ不存、理性と申ものを

大久保村江相招、年貢地ニ寺建<sup>立</sup>いたし清長山

大法寺与号、大寶寺之末寺ニいたし候由

〔一三ウ〕

申傳候得共、書面等無之故、起立・開基・本末委細

之儀者不相知、尤妻可申、子孫譲リハ無之、代々

清僧ニ而、弟子譲リを以、相續いたし来、海順も先住

貴法悞ニ者無之、海順姉かち、弟榮順三人者、

大久保村清兵衛後家まつ悞・娘ニ候得共、先清兵衛

相果候後之出生故、右三人と父者誰ニ候哉不存、

まつ・かちハ海順母・姉之事故、寺内ニ差置候儀、〔一四ウ〕

且家より差構不申、當清兵衛・喜平次・佐四郎も

まつ悞ニ而、先清兵衛存生之内致出生候間、清兵衛

悞ニ候、

『此まつ吟味仕候処、作易久米南條郡西幸村皮多

久右衛門娘ニ而大久保村皮多先清兵衛女房ニ

成、當清兵衛・喜平次・佐四郎出生いたし、三拾九ヶ年以來、亥年夫清兵衛相果候後、大法寺〔二四ウ〕先住貴法妻ニ相成候様申聞、妻帶寺之儀故、翌子年より貴法妻ニ成、かち・海順・榮順出生いたし、一同年内ニ罷在候内、貴法相果候儀ニ而、貴法肉食不仕候間、都而寺内之もの肉食ハ不致旨申之、當清兵衛・喜平次・佐四郎并かち・榮順吟味仕候処、同様申之、海順申口者符合仕候、〔二五オ〕

勿論大久保村之外、近村々拾六ヶ村皮多之内大宝寺〔二五イ〕且家有之候処、道法隔候故、大法寺開基以來、同寺〔二五ロ〕且家ニ相成候、右大法寺ハ無本寺と及承、當寺共古義真言宗と相心得罷在、死滅之もの有之候節者、大法寺住地、地藏經ニ候哉、何經ニ候哉、讀之、回向いたし候故、且家之もの共ハ引道葬式与心得、光明真言〔二五ウ〕念佛を唱、土葬又ハ火葬ニも勝手次第第二取置候、海順御箱訴狀ニ者大法寺且家拾五ヶ村も認

候得共、吟味之上拾七ヶ村ニ御座候間、右村々皮多惣代之もの共吟味仕候処、大久保村之もの共、逸之村役人同様申之、下弓削村・上式ヶ村・飯田村・小原南村・西幸村、右五ヶ村之もの共も、大法寺清僧弟子讓ニ而大法寺末寺と承傳候由〔二六オ〕申立、西堀〔二六イ〕和村、和田北村之内金地、和田南村之内

大蔵、油木下村之内小寺、吉村、下方村之内十六、川崎村之内兼田、日上村、一方村、横山村、圓宗寺村、右拾壹ヶ村之もの共ハ起立開基ハ不相弁、無本寺、古義真言宗、代々妻帶、子孫相續仕来、尤肉食ハ不致由申之候、〔二六ウ〕

然處、京都東本願寺塔頭金福寺役僧玉林大久保村江參、大法寺之儀、真言宗ニ相済来候儀ニ可有之候得共、皮多寺之分ハ慶長年中東本願寺江從

公儀被下置候宗牀之儀ニ候得者、皮多寺真言宗之分者、不殘一向宗為致改宗、本願寺江致附屬、下寺ニ相成候積リ、

『此儀豊前守方ニ而、東本願寺輪番江相尋候処、〔二七オ〕皮多寺之分、慶長年中本願寺江被下候儀、旧記ニ相見不申由申之、申口符合不仕候得共、今般奉伺候裁許之趣ニ而者、強而取用ニ難相成儀ニ御座候間、玉林者相糺不申候、』

所々支配之役僧江申立候間、大法寺も東本願寺江附屬いたし、寺且共改宗いたし候様、申聞候得共、代々真言宗ニ而相済来候儀ニ候間、今更改宗いたし〔二七ウ〕候儀者不得心ニ候旨、相答候處、右牀内意申聞候儀を得心不致候得ハ、支配役所江申立、江戸表江呼出候而成共、改宗為致候由、玉林申候間、其節兼帶庄屋忠右衛門江右之趣申達、大久保村且家村々江廻狀差出、追々呼寄、

尤海順ハ漸拾四歳之節故、村役人引請取斗二及相談候処、從

公儀被仰付候儀を違背可致様無之候得共、代々真言宗ニ而宗門帳銘々役所江差出、相済来り、〔二八オ〕

役所ハ申付も無之上ハ、改宗之儀不得心ニ候旨、一同申之、右且家之もの共、海順江も對談致し、存念承札候處、改宗いたし候所存無之旨、海順相答候、『此儀大法寺且家拾七ヶ村皮多惣代之もの共、吟味仕候処、本文申口之通申之候、』

其節之支配森對馬守御預り所播磨二野役所江

玉林罷出、改宗之儀申立、村役人共呼出有之、是迄〔二八九〕

之通真言宗ニ而罷在候所存ニ候哉、又ハ一向宗ニ改宗いたし候所存ニ候哉之段、尋有之候付、真言宗ニ而罷在度旨、申立候処、東本願寺江懸合之上、追而可及沙汰旨、

申渡候間、帰村いたし、玉林も大久保村江立戻、何分改宗可致旨、申聞候ニ付、大宝寺有仙を呼寄、玉林江為致對談、改宗之儀不得心之旨、再應相答候〔二九オ〕

儀ニ而大久保村玉林止宿中、大法寺且家之もの共江改宗申勧、大久保村利右衛門・善四郎・四郎兵衛・

市郎右衛門・又四郎・七郎右衛門・新三郎・弥七郎、右八人者一向宗帰依ニ成、玉林と相對いたし、同國勝北郡真可部村一向宗皮多教福寺形且那二

相成候間、一向宗ニ改宗いたし度旨、申候得共、其外之もの共、改宗いたし候所存無之故、玉林ハ致帰京〔二九ウ〕

其後何方よりも改宗之儀申聞候もの無之、右八人ハ海順宗判請不申、宗門帳印形相滞、教福寺ハ野役所江相願候得共、取上ヶ無之、

『此儀教福寺泰隆吟味仕候處、京都東本願寺塔頭金福寺下寺と唱、一向宗ニ而他宗皮多寺

有之儀不存候処、先住了音在住之砌、真言宗皮多大法寺且家之内、利右衛門外七人一向宗ニ

改宗いたし候間、預り且那二可致旨、玉林申越候得共、右八人之もの共ハまた支配役所江不申立由、

申聞候ニ付、了音上京いたし、金福寺江申立、役僧即常坊・恩教坊より二野役所江之

書狀申請差出候処、是迄東本願寺内下妻

治部卿ハ文通有之候得共、即常坊・恩教坊ハ

文通いたし候儀無之候間、別段右役所ハ東本願寺江懸合候旨申渡、即常坊・恩教坊書狀差戻候ニ付、〔三〇ウ〕

猶又了音致上京、金福寺江右書狀相返候處、支配役所ニ而聞濟無之上者、右八人預り且那二致

間數旨、申渡候ニ付、帰村いたし、其旨八人之もの共江相断候儀ニ而、其外之儀者不存由申之、泰陞申口ニて相分候間、先住了音ハ呼出不申候、〔三二オ〕

右役所より東本願寺懸合有之候処、金福寺役僧玉林、己之存寄を以、宗法之儀彼是申聞、不束之

取斗いたし候儀者相聞候、宗門之儀者前々之通りいたし置、然旨、東本願寺ハ申越候由ニ而、右返書



忠右衛門江讀聞候旨、同人より承、村方之もの共江も  
 申聞候得共、八人之もの共ハ海順宗判請不申、  
 宗門帳江印形不致候ニ付、忠右衛門江其狀申聞、八人之  
 もの共ハ無印ニ而、宗門帳差出候処、久世役所江  
 八人之もの共呼出、海宗判請可申旨、利害申渡、一同  
 宗門帳江致印形、其節迄之宗門帳江大宝寺末寺  
 大法寺と肩書無之候得共、玉林罷越砌、本末等  
 之儀、事六ヶ數申聞候故、村方一同相談之上、海順江も  
 申談、大宝寺末寺大法寺と、以来宗門帳江肩書  
 いたし度旨、村役人共并海順連印願出、忠右衛門を以、  
 久世役所江差出、聞届有之候付、宗門帳肩書認、<sup>〔三三オ〕</sup>  
 一同海順宗判を請候得共、大法寺旦家外村々々  
 申合候儀無之候間、外々之内宗門帳江右鉢  
 肩書認候も有之候哉不存、勿論海順儀外ニ  
 本寺を相頼、正き宗門ニ相成度、又ハ致改宗可申抔  
 申聞候儀無之、右鉢之海順存立在之他国出致し  
 候儀、心付も無之、何方も不承候、然処海順儀、  
 津山領旦家之もの共、宗判ニ罷越候儀并玉林罷越<sup>〔三三ウ〕</sup>  
 候節之諸入用割合、右村方取立候哉、可承礼と存、  
 大法寺江参り候処、海順行之由、まづ申聞候、其後  
 何方江参候哉不相知旨、申越候間、  
 『此儀、まづ・かち・榮順・清兵衛・喜平次・佐四郎吟味  
 仕候処、大法寺ハ本寺無之、真言宗与申名目斗ニ而宗派之  
 教傳來不致候間、本寺を相頼、正き宗門ニ相成度旨』

海順申之、去ル丑八月村方出立、紀高野山、京都  
 御室御所、其外撰劔富田本照寺江罷越、同十月申  
 歸村いたし候儀ニ而、右留守中、村役人共越、まづと  
 對談いたし候儀無之、勿論何方も海順行衛尋  
 候もの無御座、村役人共申立候趣、相違之旨申之候、  
 『所々相尋候得共、行衛不相知候ニ付、其段忠右衛門方江  
 申聞候間、久世役所江相届候処、海順行衛可相尋旨  
 申渡有之、所々相尋候得共、行衛不相知、寺役且用  
 差支候ニ付、本寺大宝寺江寺役且用兼帶相頼候旨、  
 大宝寺宥仙俱々久世役所江相頼、聞届有之候儀ニ而、  
 海順儀出寺候以後、書狀等差越候儀無之、右致出寺、  
 行衛不相知段、大法寺旦家村々江も廻状差遣、  
 海順立戻不申儀与相心得罷在候処、  
 『此儀、旦家村々相糺候処、申候符合仕候、』  
 いづ頃海順歸村仕候哉不存、村役人共方江海順参り<sup>〔三四オ〕</sup>  
 西本願寺末撰劔本照寺江罷越、致符屬下寺ニ  
 相成、大法寺并旦家一同一向宗ニ致改宗候間、其旨  
 相心得候様申之候故、驚入、改宗之儀ハ不得心ニ候、勿論  
 右鉢致改宗候存寄ニ候ハ、可及相談候処、無其儀、殊ニ  
 他出いたし候儀、届も不致、久々行衛不相知候ニ付、  
 久世役所江出寺之儀申立、聞届之上、大宝寺宥仙江  
 大法寺兼帶相頼、寺役且用為取斗候間、改宗抔<sup>〔三四ウ〕</sup>  
 之儀難及沙汰旨、致挨拶候処、海順ハ改宗之儀猶又  
 忠右衛門江申聞、同人より相尋候ニ付、是迄之通真言宗

にて罷在度候、尤大法寺ハ大宝寺末寺ニ無相違旨、  
 相答候處、前書先達而一向宗ニ改宗いたし度旨申之候、  
 八人之内、七郎右衛門・新三郎ハ改宗之所存相止メ、  
 又四郎ハ其以前身上相仕廻、名前相除、市郎右衛門  
 家内人別ニ加リ、弥七郎ハ相果候得共、同人娘 〔二五〇〕  
 きく跡株相續いたし罷在、右きく・利右衛門・善四郎・  
 四郎兵衛・市郎右衛門五人并海順同腹之兄清兵衛・  
 喜平次・佐四郎加リ、都合八人ハ大宝寺を大法寺之  
 本寺扨と申儀、紛敷候間、海順俱々改宗いたし、  
 他之本寺を相頼度旨申之、忠右衛門ハ久世役所江  
 右之趣申立候ニ付、久世役所江村役人共呼出之上、  
 本照寺使僧之由ニ而不退ニ申もの罷越、改宗之儀 〔二五〇〕  
 役所江申立候得共、取敷無之旨申渡有之、海順も同様  
 申立、本末之儀をも申争罷在候内、其後又候海順何方江敷  
 罷越候處、久世役所江呼出有之、海順大坂表江罷登リ、  
 御代官役所江罷出、改宗之儀申立候得共、聞濟無之候、然共  
 村方人別ニ不加候而者、大法寺江帰住難成旨申立候間、  
 村方人別江可書入段、久世役所江申来候ニ付、其旨  
 相心得候様申渡有之、其御海順所も役所江罷出 〔二六〇〕  
 候由ハ及承候得共、村役人共呼出無之候間、何様之儀  
 申立相願候哉不存、去ル寅年宗門帳之儀、前書八人  
 之もの共ハ海順宗判可請旨申之、其外之もの共ハ  
 有仙宗判を請可申旨申争、忠右衛門ハ久世役所江申立  
 候處、一同有仙宗判請可申旨、右役所江申渡有之候由、

忠右衛門申聞候得共、八人之もの共得心不致、印形  
 相滞候ニ付、忠右衛門取斗、宗門帳江下ケれいたし、八人之  
 もの共ハ無印ニ而差出、其外之もの共ハ有仙宗判を請 〔二六〇〕  
 相濟候後、久世役所江之申渡ニ而大坂奉行所江罷出候處、  
 海順御箱訴いたし候得共、取上無之、右訴状焼捨候間、  
 重而御箱訴致間敷旨、海順江申渡有之、海順請  
 證文江村役人共奥書印形いたし候後も、海順寺内ニ  
 不罷在、取バリ不宜候ニ付、有仙と相談之上、大法寺  
 境内ベ切、右寺内ニ罷在候もの共ハ、清兵衛方江差遣 〔二七〇〕  
 候處、喜平次・佐四郎右ベ切取拂候ニ付、有仙ハ御料  
 生野役所江申立、右役所江忠右衛門方江申来、立合  
 人切封印いたし置候處、右八人之もの共ハ前書宝福寺  
 預リ旦家ニ成、宗判を請、其外之もの共ハ有仙宗判ニ而  
 相濟候處、猶又大法寺ベ切取拂候様、忠右衛門方江申来、  
 夫より海順并まつ・かめ・栄順、寺内江立戻罷在候、尤  
 夫迄之仕来ニ而まつ・かめハ清兵衛家内人別ニ加リ、栄順ハ  
 人別ニ洩、帳外ニ相成居候段、海順申立候通、無相違  
 候得共、年々人別帳改候節、増減有之候ハ、申聞候様  
 相觸候處、栄順を何連之人別江も書加呉候様、何方方も  
 不申聞候故不心付、仕来ニ泥ミ人別ニ洩候儀ニ而、  
 子細有之帳外ニいたし置候儀ニ者無之、  
 〔一〕利右衛門・四郎兵衛・善四郎・市郎右衛門吟味仕候處、大法寺  
 旦家ニ而、起立・開基不存、無本寺、真言宗妻帯 〔二八〇〕  
 子孫譲ニ而相續仕来候、然處去ル酉九月玉林罷越、

止宿中、改宗之儀申勸候故、右四人并七郎右衛門・新三郎・又四郎・弥七郎、都合八人之もの共一向宗帰依ニ相成、玉林并教福寺<sup>三</sup>并野役所江申立候得共、取上無之処、宗門帳ニ印形相滞候ニ付、久世役所ニ而四郎兵衛江利害申聞有之、印形いたし、夫去<sup>レ</sup>丑年迄海順宗判を<sup>二</sup>請、無滞相濟候処、大法寺之儀、真言宗と申名目ニ而<sup>一</sup>本寺無之、宗派之教傳來不致候間、以來本寺を相頼、正ギ宗門ニ相成度旨、海順申聞候故、於役所ニ聞濟有之儀ニ候ハ、何宗ニ改宗いたし候共、大法寺を離<sup>レ</sup>いたし候所存無之旨、海順江及挨拶候処、同人高野山・御室御所江罷越、本寺之儀相頼候得共、聞濟無之、本照寺ニ而ハ聞濟有之趣ニ候旨申之、<sup>二</sup>二九〇<sup>一</sup>猶又同寺江罷越、相頼候処、聞濟有之、致婦村、村役人共江申談候得共、得心不致候、然共大宝寺を大法寺本寺坏と申儀、紛敷候間、海順俱々致改宗、他之<sup>一</sup>本寺を相頼度旨、忠右衛門江申立、去<sup>レ</sup>貞享年宗門帳ニ印形不致、翌卯年之儀ハ宝福寺預リ旦那ニ成、宗門帳江印形いたし候由申之、弥七郎ハ相果、同人娘きくハ病氣ニ而罷出不申候得共、きく代共四人之もの<sup>二</sup>吟味<sup>一</sup>引請相頼、最初八人之内、七郎右衛門・新三郎ハ先達而<sup>レ</sup>改宗之所存相止リ、又四郎ハ市郎右衛門家内人別ニ加リ、外ニ相尋候儀無御座候間、きく・七郎右衛門・新三郎・又四郎ハ呼出不申候、』

且前書申立候玉林罷越候節、利右衛門方ニ都合日数八日止宿いたし、右止宿中朝夕賄等之入用者利右衛門并分家久右衛門方差出、外江割合不申段ハ、無相違候得共、<sup>三三〇六</sup>

『此利右衛門・久右衛門吟味仕候処、久右衛門ハ教福寺旦那ニ而久右衛門方江玉林罷越候得共、大病ニ而宿難相成、本家利右衛門江相頼、日数八日利右衛門方ニ玉林止宿いたし、右止宿中、朝夕賄等之入用ハ兩人より差出、外江割合不申候由申之候、』

玉林改宗之儀申聞候故、且家村々江廻状差遣候人足貴<sup>三〇七</sup>右旦那之もの共寄合候節、茶代等、宥仙を呼寄候入用、其外宗門之儀ニ付、諸入用都合銀三百四拾四匁余相懸候間、仕来之通、大法寺旦那家拾七ヶ村皮多人別江割合候處、拾式ヶ村之もの共ハ申分無之、割合之通銀差越候得共、津山領一方村・横山村・圓宗寺村・日上村・川崎村之内兼田、右五ヶ村之もの共ハ入用過分ニ相見候旨申之、差越不申候間、右入用不取立候而ハ、以來之例ニ相成、右類之入用取立候儀不相成、寺相續之障ニも可成間、何分取立候様、海順江申聞候儀ニ而、宗判致間敷旨差留候儀ニハ無之、<sup>三三〇七</sup>『此儀、大法寺旦那之内、大久保村并下弓削村、上式ヶ村、飯岡村、小原南村、西幸村、西堀<sup>四</sup>和村、和田北村之内、金地、和田南村之内大蔵、油木下村之内小寺、吉村、下方村之内十六、右拾式ヶ村皮多惣代之ものとも吟味仕候処、申分無之、割合之通銀子差出候儀ニ而、<sup>三三〇八</sup>

委細大久保村役人共申立候通申之候、

津山領村々皮多惣代之もの共吟味仕候處、大久保村役人共、割合候入用銀高過分ニ相見候間、海順ニ相尋候處、銀百五拾四匁余、拾七ヶ村旦那家皮多共割合差遣候得者、申分無之旨申聞候間、大久保村役人共、割合方難心得存、不差遣候處、宗判致間敷旨、右村役人共差留候由、海順申之、去ル丑年宗判差支「三三才」候三付、海順を呼寄、津山領五ヶ村分四拾八匁余、海順江相渡、宗判相濟候儀之旨申之候、

一 大久保村役人共、割合候入用与海順申談候入用ハ別段ニ而、村役人共割合之分、津山領村々々今以不差遣候得共、少分之儀濟方相願候所存無之由申之候、』

勿論私欲いたし候儀ニ者無之、海順行衛乍存、出寺「三三才」いたし候旨、可相居様も無之、且大法寺儀、大寶寺と認來候處、大寶寺両寺有之候而ハ紛敷候間、一件片付候迄、両寺之内文字認替候様、久世役所ニ而申渡候間、夫以来大久保村大寶寺を大法寺与認替候儀ニ而六名村大寶寺之末寺故、文字同様ニ相認候由申傳ニ候得共、都而本末之儀ニ付、證據無之、尤海順是迄之通大宝寺を本寺与相心得、外ニ本寺を不相頼、改宗いたし候存念相止候得ハ、先達而り大法寺江帰旦いたし候得共、大寶寺ハ本寺「三三才」無之、外ニ本寺を相頼、改宗いたし候旨申聞候間、帰旦不仕、去ル寅卯兩年ハ大宝寺有仙宗判を讀、今以且用

同寺江相頼罷在候、下弓削村・上式ヶ村・飯岡村・小原南村・西幸村旦那家之もの共も同様ニ候段ハ及承居候得共、此もの共申勘差押、大法寺江帰旦不為致筋ニ者無之候間、此段ハ右五ヶ村旦那家之もの共、吟味之上「三三才」

開濟相願候、

『此儀本文五ヶ村皮多惣代之もの共吟味仕候處、大久保村役人共与申合候儀ニハ無之候得共、玉林罷越候御、本末之儀も事六ヶ敷申聞候ニ付、海順江申談、

大宝寺末寺大法寺与以来宗門帳江致肩書

度旨、銘々村役人共申立、領主役所江相願、開濟

有之候ニ付、去ル丑年迄「三ヶ年ハ、右之通宗門帳ニ「三四才」

肩書認、一同海順宗判を讀候處、海順致出寺

行衛不相知、且用差支候ニ付、大宝寺有仙江

及相談、猶又村役人を以、銘々領主役所江願之上

兼帶相頼、寅卯兩年有仙宗判を讀、相濟

候儀ニ而、海順儀是迄之通、大宝寺を本寺与心得、

外ニ本寺を不相頼、改宗いたし候存念相止候得ハ、

先達而り大法寺江帰旦いたし候得共、大宝寺ハ本寺ニ

無之、外ニ本寺を相頼、改宗いたし候旨申聞候間、

帰旦不致候由申之候、

一 右皮多共召連罷出候五ヶ村役人共吟味仕候様、申口

符合仕候』

然處大法寺ハ大宝寺之末寺ニハ無之、海順申立候通、無本寺ニ相決、いつ連之寺院江附屬いたし、下寺ニ

相成、一向宗者勿論何宗改宗申付候共、願筋無之旨、<sup>〔三五オ〕</sup>  
 申之候ニ付、大法寺代々清僧弟子譲之由申立候得共、  
 妻帯子孫譲之旨、海順申之、既海順・栄順・かち者  
 先住貴法子ニ而、右之もの共同腹之兄清兵衛・喜平次・  
 佐四郎申口も符合いたし候処、海順・栄順・かち者  
 先清兵衛相果、まつ後家ニ相成、致出生候間、右三人之  
 父者誰ニ候哉不存もの申口不束ニ候、実之父不相知、  
 海順大法寺ニ住職いたし候を、其分ニいたし置可申様  
 無之、然上者海順申立候通、清僧ニ者無之、妻帯子孫<sup>〔三五ウ〕</sup>  
 譲リニ候処、子細有之、申紛候ニ無相違、其外之儀とも  
 有様可申旨、再應吟味仕候得共、実之海順・栄順・かちハ  
 先住貴法子共ニ而、代々妻帯寺ニ候得共、真言宗故、妻帯  
 ニてハ齟齬いたし如何と存、清僧之由相違を申立、  
 恐入候、尤海順拾壹歳ニ而住職いたし、大法寺印形  
 村役人共方江預り置候段有之候得共、海順江無沙汰ニ<sup>〔三六オ〕</sup>  
 印形相用候儀無之、都而相用候度々、海順江申  
 開候儀ニ而勿論、去ル丑迄三ヶ年之宗門帳、大寶寺  
 末寺大法寺と肩書認、大法寺印形有之候共、  
 新規之儀ニ而其以前之證據無之、申傳迄ニ而両寺共  
 駈与起立・開基不相分上ハ大法寺之儀大宝寺末寺と  
 申儀難相立旨吟味請可申立様無之由申立候ニ付、  
 人別帳外之もの村内ニ可差置筋ニ無之間、たとひ<sup>〔三六ウ〕</sup>  
 栄順を人別ニ書入呉候様申聞候もの無之候共、大法寺  
 先住貴法倅ニ相違無之、まつ・かちも寺内ニ罷在候ハ、

取斗方支配役所江可相同処、真言宗之名目ニ而  
 相済来、妻帯ニ而ハ齟齬いたし候迎、清僧と申立、  
 まつ・かちハ清兵衛家内人別江加へ、栄順を帳外ニ  
 いたし置候段、旁不埒之旨吟味請、無申披由  
 一同申之候、  
<sup>〔三七オ〕</sup>

大寶寺有仙吟味仕候処、讃郡村名不覚百姓  
 助左衛門倅ニ而、両親共幼年之節相果、同国豊田郡  
 国田村庵室ニ罷在候、新義・古義不相弁、真言宗  
 有昌弟子ニ成、出家仕、隨身いたし居候処、有昌も  
 相果候ニ付、廻国出、宝曆七丑年備後国奴可郡栗村<sup>〔三七ウ〕</sup>  
 地内皮多持大日堂ニ罷在、夫ハ皮多ニ相成候処、大宝寺  
 無住ニ而、皮多増福寺ハ寺役・且用兼帶いたし候得共、  
 不行届候間、罷越候様、増福寺先住行順申聞候ニ付、  
<sup>〔三七ウ〕</sup>

『此行順ハ先達而病死仕候』

翌寅年ハ大宝寺江引移、宥司同様寺役且用取斗  
 罷在候内、且家より六名村役人共江申立、領主役所江相願、  
 開済之上、翌卯年ハ住職ニ相成候、大宝寺山号栄光山与  
 唱へ、貞和ニ戌年起立ニて開基初代西明ハ宥仙まで  
 式拾代、無本寺、古義真言宗清僧弟子譲を以、相續仕来、  
 寺院ハ見捨無年貢ニ而、式拾四ヶ村皮多共之内且家<sup>〔三八オ〕</sup>  
 有之、大法寺并同国真嶋郡垂水村宝福寺、備中国  
 阿賀郡井尾村真光坊、備前国御野郡伊福村  
 常福寺、右四ヶ寺ハ大宝寺末寺ニ而勿論起立・開基・  
 末寺等之儀、證據書物も無之、申傳迄ニ而駈与不相知、

右末寺入院住職交代并年始者祝銀持参いたし候  
定例ニ候処、不相越儀も有之候得共、遠末之儀ゆへ  
其分ニいたし置候、  
〔三八ウ〕

『此真光坊行定、常福寺知心、宝福寺榮順吟味

仕候処、右三ヶ寺并大法寺ハ大宝寺末寺之由申傳、

其外之儀共、宥仙申立候通無相違候得共、證據書物等

無之、銘々起立・開基・世代等之儀も相知不申、尤妻帶

肉食不仕清僧ニ而、代々弟子讓を以相續仕来候旨

申候ニ付、今般吟味之上、大法寺ハ代々妻帶  
〔三九オ〕

子孫讓を以相續いたし来、既ニはる并かめ事つま者

大宝寺先々住頼惠娘ニ而、頼惠ハ同寺四代以来之

住職法光悱ニ候、然上者三ヶ寺并大宝寺も妻帶

子孫讓リニ可有之処、真言宗与申名目故、宗門帳ニ

齟齬いたし候間、清僧弟子讓と申紛候儀与察度

申聞、猶又吟味仕候処、大法寺ハ妻帶子孫讓リニ

候哉、同末迄申傳候迄ニ而法用等申合候儀ハ勿論  
〔三九ウ〕

海順知人とも無之候間、其訳之不及、右法光・頼惠内々之

不慎者不及是非候得共、三ヶ寺者大宝寺末寺と

心得候迄ニ而、代々清僧弟子讓リニ無相違由、一同申

之候、』

當時大宝寺地内ニ罷在候皮多喜助与致同居候、同人

姪つまハ先年同寺門前ニ居候皮多作右衛門娘ニ而同村

皮多松次郎を作右衛門躰ニいたし、津ま江嫁合、悱寅<sup>四〇オ</sup>之助

出生いたし、増福寺先住行順弟子ニ成、致出家、教導と

改、大宝寺住職いたし罷在候、同作右衛門・松次郎相果、

津まハ教導実母之儀故、大宝寺江引取、養育いたし

候處、教導も相果、津満を世話いたし遣候もの無之出、教導

相果無住之節ハ其叔父喜助与同居いたし候ニ付、

是迄之通差置候様、宥仙入院之節、且家之ものと

一同申聞候間、六名村役人共江申立候処、苦ヶ間敷旨、  
〔四〇ウ〕

右村役人共申聞候、

『此儀、大宝寺旦家式拾四ヶ村皮多惣代之もの共并はる、

津ま、六名村役人共申口も符合仕、喜助ハ外ニ相尋  
候儀も無御座候間、呼出不申候、』

然處玉林大久保村江罷越候節、及對談候始末、并其後

村役人共ハ海順出寺いたし行衛不相知旨申越候ニ付、

大久保村江參り相談之上、俱々久世役所江相願、聞濟有之、

大法寺兼帶いたし寺役且用取斗、并海順寺内ニ不可罷有、  
〔四一オ〕

取ベリ不宜候ニ付、是又大久保村役人共与相談之上、寺内ハ切

置候処、取拂候ニ付、生野役所江申立、猶又締切封印

いたし置、宗判相濟候後、右ハ切取拂候趣、其外之儀共

逸之、前書大久保村役人共申立候通申之、尤大法寺

旦家拾七ヶ村之内、下弓削村・上式ヶ村・小原南村・西幸村、

飯岡村之もの共も、大久保村之もの共同様、寺役且用  
〔四一ウ〕

相頼候間、本寺之儀難及断存、取斗罷在候儀にて、

海順儀外ニ本寺を相頼、改宗いたし候所存故、右六ヶ村

旦家之もの共不得心ニ而帰且不致、此もの共も同様、

不得心ニ付、兼帶いたし罷有候外ニ本寺を不相頼、

改宗いたし候所存相止候得者、先達而<sub>レ</sub>婦旦いたし、於此ものにも申分無之候、然處大宝寺・大法寺両寺共、いつ連の寺院江附屬いたし下寺ニ相成、一向宗ハ勿論、何宗ニ改宗申付候共、願筋無之旨申之候ニ付、吟味之上、宝福寺・真光坊・常福寺、右三ヶ寺ハ大宝寺末之由ハ申口符合いたし候得共、大法寺ハ末寺ニハ無之旨、海順申立、末寺と申儀證據無之、申傳而已之儀ハ取用ニ難成旨、吟味請可申立様無之由申之候、

大法寺海順吟味仕候處、往古之儀者不相知、年曆不覚、諸国一統皮多宗門改被仰出候節、近国皮多共之内ニ<sub>四二</sub>之寺無之、因幡・伯耆両国ハ領主<sub>一</sub>一ヶ寺江毎年米拾式石ツ、差遣し、寺地も見捨無年貢ニ申付、一向宗皮多新寺

建立いたし、寺号・山号唱候由、承傳候得共、委細之儀不及因幡・伯耆両国ニ式ヶ寺、皮多寺ニハ無之、本願寺末寺ニ而両国皮多寺之分者、右両寺附屬いたし、下寺之由承

およひ候、其外諸国之儀者不存候得共、備中・作劬両国者御代官・領主・地頭<sub>一</sub>負着も無之候哉、皮多之もの共<sub>三</sub>勝手<sub>二</sub>次第坊主を拵、寺建立いたし、寺地も年貢地之由承候、

既大久保村之儀、八九拾年以前、初而宗判申付有之

候處、大久保村ニ居合候皮多ニ者無之、夫婦『暮候』伯耆大山出生之由、俗名不存、僧ニ成、理性と改、清長山大法寺と寺号・山号を唱、新義・古義之差別無之、真言宗と

名目を立、宗判いたし、妻帯ニ而代々子孫相續仕来、

二代目ハ右理性悻理教、三代目ハ理教悻無之故、同村

〔四三ウ〕

皮多次兵衛弟光密致相續候處、是又悻無之、四代目ハ六名村皮多増福寺頼慶悻清性相續いたし、五代目ハ清性悻貴法、六代目海順ニ而、同人ハ貴法悻ニ而、拾壹歳之節<sub>一</sub>住職いたし候得共、無本寺ニ而宗派之教傳來不致候間、代々地藏經・觀音經之仮名附を以讀覽、常之寺務ハ勿論、死滅之もの有之節も、右兩經念佛之

外無之、引導・葬式、都而法用之儀、曾而不相弁、大久保村外拾六ヶ村皮多之内、且家有之、寺院も御年貢地ニ而<sub>四四</sub>右之通無本寺ニ而、宗派之教も無之段、他国までも相聞候哉、明和二酉年九月東本願寺塔頭金福寺役僧

玉林罷越、大法寺之儀無本寺真言宗妻帯ニ而者、破戒之僧と申ものニ而、右牀之儀ハ有間敷事ニ候、

畢竟本寺無之故、我俣之働いたし候間、真言宗ニて慥成本寺を相頼、向後正き教を相守可申候哉、若又<sub>四四ウ</sub>本願寺江帰依之心も有之候ハ、無本寺之事ニ候間、

本願寺江申立、金福寺江附屬いたし、下寺ニ相成候様取斗可申旨、作劬ハ勿論、中国之内、皮多寺之分

数多、金福寺下寺有之候間、村役人とも江申聞、

『本文玉林申聞候趣、村役人共申口と海順申口

不引合儀共有之候ニ付、突合、再應吟味仕候得共、

銘々相違無之旨申立候由、彦右衛門・七郎右衛門申聞銘々申口符合不仕候得共、今般奉伺候裁許之

趣ニ而者強而取用ニ難相成儀ニ御座候間、玉林者

相糺不申候、』

〔四五オ〕

其砌海順拾四才ニ罷成、幼年ニ而諸事不相弁、

村役人共取斗、無本寺と申立候而者、從

公儀、寺号御取上ニ可相成も難斗、玉林江對し挨拶之

致方無之候ニ付、大宝寺を本寺と申立候ハ、可然旨、<sup>四七〇</sup>

村役人共申聞、大宝寺宥仙を呼寄、玉林江對談為致候處、

本寺有之、正キ教を請候由ニ候上者、其通之事ニ候旨申聞、

玉林者罷歸候、其後相考候處、代々肉食ハ不致、海順ハ

清僧相立罷在候得共、代々妻帯ニ而、元來本寺無之故、

宗派之教無之、身持不正、何を以坊主と可申候哉、檀家江

何を教化いたし可申候哉、既海順母まつ、姉かちも

寺内ニ罷在、右躰不慎之儀ニ而施物請候不本意、<sup>四六〇</sup>

歎ケ敷、何卒本寺を相頼、以來正キ宗門ニ相成申度

存、旦家之もの共江も申聞、四郎右衛門、伊右衛門江相届候、

去ル丑八月中紀州高野山江罷越、山内所々寺号不存、

寺江參り末寺ニ相成度旨相願候處、皮多寺ニ真言宗ハ

無之筈ニ候、山内江為立入候儀も不相成由、取合不申

候ニ付、京都御室御所江罷越、同様相願候得共、是又

皮多寺ニ真言宗者無之筈、東西本願寺・高田 <sup>四六ウ</sup>

佛光寺・富田本照寺坏ニ而者下寺ニいたし遣候儀も

可有之哉之旨、御室御所役人名前不存申候候ニ付、

『此儀、御室御所役人名前も不相知、其上今般

奉伺候裁許之趣ニ而者、強而取用ニ難相成儀に

御座候間、御室御所役人者呼出<sup>二</sup>不申候、<sup>一</sup>』

京都リ罷歸候砌、大坂其外道中筋所々真言宗之

寺院江罷越、本寺之儀相願候得共、何方ニ而も聞濟無之故、

歸村いたし、四郎右衛門・伊右衛門江相届、<sup>四七〇</sup>

『此儀四郎右衛門伊右衛門并弥四郎吟味仕候處去ル丑八月

十四日出寺いたし、いつ頃罷歸候哉不存、同十月廿日

村役人共方江罷越候儀ニ而、中帰等いたし相届候儀者

無之旨申之候、<sup>一</sup>』

旦家之もの共江も、右之趣申聞、西本願寺末本照寺

にてハ聞濟可有之趣ニ候旨、及相談候處、西堀<sup>四七ウ</sup>和村<sup>四七ウ</sup>

和田北村之内金地、和田南村之内大藏、油木下村之内

小寺、吉村、下方村之内十六、川崎村之内兼田、同上村、

横山村、一方村、圓宗寺村、右拾壹ヶ村之ものとも者

同心いたし、銘々於領主役所聞濟有之候ハ、改宗

可致旨申之、連印一札差越、大久保村ニ而も利右衛門・

善次郎・四郎兵衛・市郎右衛門・弥七郎娘きく井同腹之

兄清兵衛・喜平次・佐四郎、右八人者大法寺を離旦<sup>四七ウ</sup>

いたし候所存無之候間、海順俱々何宗ニ成共、改宗

可致旨申之、四郎右衛門・伊右衛門ハ同心不致候得共、其

外之もの共ハ、右兩人差障候ニ付、何連江も片付不申、下

弓削村・上式ヶ村・飯岡村・小原南村・西幸村之もの共者

四郎左衛門・伊右衛門申勸候ニ付、得心不致候右ハ去ル丑

五月久世役所江呼出、宗判申付候付、見届候處、大宝寺

末寺大法寺と有之候ニ付、四郎左衛門・伊右衛門江相尋、

明和四亥年以來、大久保村并右五ヶ村都合六ヶ村者、<sup>四七ウ</sup>



右之通相認候由申聞、驚入候得共、追而願方も可有之与存、去ル丑年宗判を無滯いたし候儀ニ而、此もの

拾壹歳ニ而住職いたし候故、寺附印形、四郎右衛門・伊右衛門方ニ預ケ置、自由いたし候間、宗門帳江右鉢肩書きいたし

度旨、連印を以相願候由之儀者、曾而不存、右宗門帳見届候、已来寺附印形手放不申候得共、四郎右衛門・伊右衛門

巧を以、大宝寺を本寺と偽認置候ニ付、外ニ本寺を相頼候儀、右六ヶ村之もの共者得心不致、尤前書

拾壹ヶ村之もの共ハ大宝寺を本寺杯と認候儀無之、『此儀、御箱訴狀拾壹ヶ村々古来之通無本寺と書付

差出候旨有之候ニ付、相糺候处、右拾壹ヶ村ハ六ヶ村と違、大宝寺末大法寺と宗門帳ニ肩書きいたし候儀無之旨、

申立候所存ニ而、右之趣御箱訴狀ニ相認候儀ニ而、古来之通無本寺と別段ニ書付差出候儀ニ者無之由

申之候、』右之通本末之由緒も無之、大宝寺を俄ニ本寺と相認、村役人我俣之働致し相掠候者、全本寺無之故と

存、尚又四郎右衛門・伊右衛門江相届、同九月八日村方出立、西本願寺末本照寺江罷越、本寺之儀相願候处、

役僧不退ニ、役人久田内膳委細之訳承候間、前書拾壹ヶ村連印書付差出候處、

『此儀、御箱訴狀ニハ、去ル丑八月本照寺江罷越候趣、有之候間、相糺候处、八月ハ高野山并御室御所江罷越、

一旦立戻リ本照寺江ハ九月罷越候儀にて御箱訴狀認違

之由申之候、』

一 此拾壹ヶ村連印書付之趣者、大法寺之儀、真言宗之

寺院本寺ニ相成候儀者聞濟無之上ハ、領主役所ニ而五〇ウ聞濟有之候ハ、何宗ニ成共、寺且一同改宗可致旨

有之候由申之候、』本照寺江附屬いたし下寺ニいたし可遣旨聞濟有之、

支配役所江者本照寺ハ使僧可遣旨申聞、右使僧不退ニ同道いたし、十月十七日帰村いたし、右之趣

村役人江申談候得共取合不申、出寺いたし候段、久世役申立、聞濟之上、寺役且用、大宝寺宥仙兼帶いたし五〇ウ

候由承、驚入候、右不退ニハ久世役所江罷出、改宗之儀申立候得共、取上無之、本照寺江罷帰候、然处母

姉かち・弟榮順ハ大法寺ニ罷在候处、真言宗之寺内ニ女を差置候段、役所江聞候而者、寺号取上ニ

可成も難斗由ニ而、前々之儀者不存、此もの差候而者、親貴法住職之砌より女之分ハ寺内人別ニ書加ヘ

不申、まづ・かちも四郎右衛門・伊右衛門取付ニ而清兵衛家内之人別江加ヘ、榮順者人別外ニいたし置候間、何連之

人別江成共書加ヘ、吳候様、四郎右衛門・伊右衛門江度々申談候得共、榮順者出家之儀ニ而、清兵衛家内之人別ニハ難

書加ヘ、其上真言宗之名目ニ而、先住貴法伴与ハ役所之聞も不相濟、寺内人別ニ者猶以難加旨申之、

貴法存生之節ハ榮順者人別ニ洩罷在候段、榮順を帳外ニいたし置、時節を見合、此ものともに

追失ひ、寺且とも大宝寺江相渡可申、四郎右衛門。〔五二オ〕

伊右衛門心底紛敷、既ニ高野山・御室御所并本照寺江罷越候節、其度々四郎右衛門・伊右衛門江相届、撰劾村名不覚皮多善次郎、和劾村名不覚皮多久兵衛江

相頼、無間も帰村いたし候間、寺役且用ハ弟榮順江

為取斗呉候様、両度四郎右衛門・伊右衛門方江書状差遣、行衛慥ニ相知有之候処、

〔五三乙〕

『此儀、四郎右衛門・伊右衛門并弥四郎申口之ケ条有之候通、書状等差越候儀者無之由申之候、』

一 善次郎・久兵衛儀、郡村名不相知、呼出不申候、』

弥四郎をも相談ニ加へ、三人申合、此もの親兄弟とも江

一應之儀も不申聞、出寺いたし候由申上、寺役且用

大宝寺江兼帯為致候段、難心得候間、寺且共一同一向宗

改宗いたし度旨、久世役所江相願度候間、願書奥印〔五三オ〕

いたし取次呉候様、忠右衛門江相頼候得共、同人も不致

得心候ニ付、役所江直ニ罷出、大宝寺末寺ニハ無之、改宗

致度旨申立候得共、取上無之候間、其節大坂表御代官

内藤十右衛門方江罷出、出寺いたし候儀ニハ無之旨、委細

申立、改宗致度由も申立候処、改宗之儀ハ開濟無之、

出寺ニ無之趣者聞届有之、十右衛門并稻垣藤左衛門方

久世役所江申遣、同年十二月右役所ニ而帰村申付、〔五三ウ〕

村方人別ニ加り、此儀者相濟候得共、大法寺江歸住いたし

候而者、四郎右衛門・伊右衛門巧を以、玉林罷越候節之

諸入用与名附、且家村々銀子取上候私欲

相頭候付、大法寺ハ大宝寺末寺、隠居寺杯と

申偽、大久保・下弓削・上式ケ・飯岡・小原南・西幸、

都合六ヶ村之もの共帰且不致候、前書四郎右衛門・

伊右衛門私欲相頭候と申立候子細者、玉林罷越〔五四オ〕

候節止宿中之入用、利右衛門・久右衛門方差出、外江

割合不申候処、銀三百四拾四匁四分四厘相懸候由、四郎右

衛門・伊右衛門申成、且家村々江相觸候処、津山領五ヶ村之

者共〔入用辻相尋候間、玉林罷越候節村役人共度々大法寺江

寄合、茶代等銀三拾目余、并明和五子年高野山ニ

此もの参詣いたし候入用共、都合百五拾四匁余相懸

候ニ付、其旨申聞候處、

〔五四ウ〕

『此去ル子年高野山江参り候者参詣一通ニ而、本寺之儀

相頼候ニ者無之由申之、本寺之儀頼候ハ翌丑八月

之儀ニ而、前書本文申立候通、相違無之由申之候、』

津山領五ヶ村之もの共、右入用割合不差越候間、宗判

致間敷旨、四郎右衛門・伊右衛門申聞候故、任其意ニ、去ル

丑年〔津山領五ヶ村旦家之もの共者宗判一旦申延置候処、

宗判差支迷惑之由申聞候ニ付、尤ニ存、無滞宗判〔五五オ〕

いたし、右五ヶ村割合銀四拾八匁余請取罷帰、右之段

四郎右衛門・伊右衛門江申聞候処、先達而宗判致間敷旨

差留置候儀を不相用、宗判いたし候故、四郎右衛門・

伊右衛門方割合候入用取立差支候、右鉢村役人ニ

申付を違背いたし候上者、寺内江垣を結び候杯、兩人

申之、腹立いたし、其已来右之儀を遺恨ニ存、不和ニ

相成候、且大宝寺之儀も大法寺同様、代々妻帯ニ而〔五五ウ〕

本寺等無之、先々住頼恵ニ男子無御座、は流〔五五ウ〕・か免と

申娘式人有之、はるハ大法寺且家吉村皮多半三郎

女房ニ成、かめハ有仙妻ニ而大宝寺ニ罷在候由及承候、

右頼恵先年相果、久々無住ニ而同村皮多増福寺

先住行順兼帶いたし、尤増福寺も皮多ニ而則、

海順祖父清性者増福寺頼慶倅ニ而、大法寺三代

已前之住職いたし行順倅候哉、又者兄弟ニ候哉、〔五六オ〕

有善与申もの大宝寺住職ニ相成、頼恵娘かめ女房ニ致し

男子老人出生、教尊と申候處、其後如何之訳ニ候哉、

有善者増福寺ニ立戻り、教尊後住ニ相成、右教尊相果、

有仙入院いたし候由、及承候迄ニ而、右両寺之儀ハ委細不

存候得共、かめ者大宝寺人別内ニ者書加不申、同村之

もの家内人別ニ加ヘ置候儀与相察、是等之儀、本寺

無之故と存候、

〔五六ウ〕

『此儀、御箱訴狀ニ、有仙入院いたし、かめ男子老人出生仕、

教尊と申、かめ者有仙妻と及承候迄と有之、左候得者

教尊ハ有仙倅と相聞候ニ付、吟味仕候處、御箱訴狀者

認違候儀ニ而委細不存治定いたし候儀、三者無之候得共、

本文之通及承候ニ付、申立候由申之候、

は流并かめ事津満申口之趣ニ而ハ前書大宝寺

有仙吟味書之内ニ朱書ニ認候通ニ御座候、〔五七オ〕

増福寺行春吟味仕候處、古義真言宗無本寺、

清僧代々弟子讓を以相續仕来、妻帯ニハ無之旨、

申之候ニ付、外皮多寺共同様察度申聞、吟味

仕候處、右申立候通、無相違由申之、六名村役人とも

申口も符合仕候、尤右村役人共ハ皮多ニハ無御座候、

大宝寺四代以前光密相果、娘上ニ而男子無之、且家

相談之上、増福寺頼恵倅清性を賞請、大法寺相續〔五七ウ〕

いたし候、清性者此もの祖父ニ而、増福寺ハ清性持参

いたし候書物讓受、所持仕罷在候處、元禄八亥年

其節之領主安藤對馬守役所江大宝寺・増福寺

連印ニ而差出候書付扣ニ未寺之分認有之候得共、

大法寺者認無之、享保六丑年右両寺連印之書付ニも

大法寺之儀無本寺、別山両寺組合ニ者無之旨有之

候上者、大宝寺末寺ニ無之段、分明ニ候處、末寺又者〔五八オ〕

隠居寺杯と無謂儀を申聞、且家差戻不申候間、

『本文両通之書付為差出、相糺候處、元禄八亥年

之書付ニ元祖西明ハ玄識まで七代本寺高野山

五之宝谷理福院之末寺ニ定居候得共、三年以前

追放ニ相成、本寺無之、美袋村知教坊、水田村

真光坊、十六村教傳坊、国守村長福寺、右四ヶ寺者

末寺之旨認、増福寺頼慶・大宝寺頼賢書判〔五八ウ〕

印判有之、右書付之通無相違旨、六名村役人共奥書

有之候得共、無印ニ而継合間近く、且又印形も無之、

殊ニ両寺連名ニ而何連之末寺ニ候哉も不相分、享保六

丑年之書付も両寺印形有之、大法寺ハ元来無本寺

別山ニ而両寺之組合ニハ無之、大法寺住職光密相果

候ニ付、大宝寺悴清性ニ為致住職候得共、寺之儀者  
古来之通ニ候、然上者、後年ニ至、末寺抔と申間敷旨五九〇  
認有之候得共、印形も削候躰ニ而、書面墨色も享保之  
品与者不相見、殊可引合證據も無御座、兩通共難  
取用、都而疑敷書面故取拵候儀も可有之哉と察度  
申聞、吟味仕候得共、取拵候儀ニ者無之、讓受致所持  
候段者無相違由申之候、

右書付ニ有之候美袋村知教坊ハ先年致退轉、

右且家辻田村大圓坊兼帶いたし候旨及承候由、五九ウ

海順申立候ニ付、大圓坊惠正吟味仕候処、知教坊儀

曾而不承傳由申之候、且水田村真光坊と有之候者

井尻村真光坊ニ而、十六村教傳坊与有之ハ垂水村

宝福寺ニ而、国守村長福寺と有之候ハ伊福村之内

国守常福寺事ニ而、右之もの共吟味之趣者

前書大宝寺有仙申口之内朱書ニ申上候、

猶又大坂表江罷越、帰且有之候様致度旨、十右衛門・六〇オ

藤左衛門方江相願候得共、相手大宝寺ハ板倉隠岐守領分

之ものニ而、殊ニ宗法之儀ニ候得者、吟味難成旨申渡候間、去ル

寅二月隠岐守松山役所江罷出相願候処、御料・私領

数多之内ニ旦家人組有之、吟味難成由ニ而相手方對決等も

不申付訴状戻候ニ付、同五月大坂表江罷越、室賀山城守方江

駈込、訴いたし候得共、近年者遠国之願事ハ不及沙汰由

にて、取上無之、此上如何様共致方無之ニ付、最早江戸六〇ウ

奉行所江願候外無之候処、極貧之もの故路銀等無之

十方ニ暮罷在候処、何方江御箱訴いたし候而も、早速江戸  
奉行所江相届候儀者不与存付、同月十三日山城守

御役所門外ニ出有之候箱江訴状入候処、同二月廿七日

神善大和守御役所江呼出、山城守立合、摂劔・河劔・泉州・

播劔、右四カ国之外、諸願公事訴訟等、右奉行所ニ而ハ

不取上候間、訴状焼捨ニ申付、重而御箱訴致間敷候、然共

堂上方又ハ江戸奉行所江相願候儀ハ勝手次第之旨、山城守

申渡候ニ付、乞食いたし候而成共罷出、江戸奉行所江相願

申度存、其節在勤仕候平岡彦兵衛、生野役所添簡

相願候得共、寺法之儀ニ候得者、添簡難成旨申渡有之、

いたし方無之ニ付、重而御箱訴致間敷旨、先達而申渡

有之、恐入候得共、去ル卯八月廿七日大坂御目付之箱江

訴状入候儀ニ而、此もの存念者、五畿内近国いつ連之六一ウ

役所江成共被仰渡、吟味之上、宗門之儀者無本寺、真言宗ニ

成共、又者一向寺ニ成共、旦家之もの共帰旦いたし、

住職相立候様申付有之候得者、外ニ願筋無之処、吟味ニ

相成難有存候、尤大法寺之儀、大宝寺共相認候旨

申之候ニ付、相手方之もの共儀、大法寺者妻帯ニ者

無之、清僧弟子讓之旨、最初申立候得共、再應

吟味之上、大法寺ハ此もの申立候通、妻帯子孫讓ニ六二オ

無相違旨申之、大宝寺・増福寺ハ妻帯子孫讓ニハ

無之旨、右両寺召連罷出候、六名村役人共并且家

之もの共申口符合いたし、勿論はる・つ満ハ大宝寺

先々住頼恵娘ニ而、頼恵者四代已前之住職法光悴ニ候旨、

は流申之、大法寺先々住清性ハ増福寺頼慶悱ニ候共、  
右者住職之もの不慎ニ而、都而住職之もの女犯之

儀有之候<sup>六二ウ</sup>、其寺院妻帯寺ニ可相成筋ニ無之、一鉢<sup>六二ウ</sup>  
大法寺・大宝寺・増福寺ニケ寺共、真言宗之名目候上ハ、  
清僧寺ニ可有之儀ニ而、尤津まハ有仙妻ニハ無之旨、一件<sup>六九五</sup>  
申口符合いたし、風聞推量之儀者難取用、次ニ元禄八  
亥年之書付ハ増福寺頼慶・大宝寺頼賀書判・

印判有之候得共、奥書ニ村役人之名前斗認印形無之、  
切継も間近候處、継合も無印ニ而、殊ニ両寺連名故、何レ之  
末寺ニ候哉不相分、享保六丑年之書付ニ是又両寺<sup>六三ウ</sup>印形  
有之候得共、右印形削候<sup>六三ウ</sup>ニ而、書面墨色も享保之  
品与者不相見、外ニ可引合證據無之、而通共取用ニ  
不相成、勿論相手方之もの共申立候趣も無證據ニ付、

大法寺者大實寺之末寺与申儀、相手方申口も  
難取用、吟味之上、大法寺ハ無本寺ニ相決候ハ格別ニ  
候得共、縦令幼年之節ニ而も住職いたし候上ハ、寺附之  
印形村役人共江預ケ置可申様無之、既大宝寺末寺<sup>六三ウ</sup>  
大法寺与宗門帳相認度旨、村役人并此もの連印書付

を以相願、三ヶ年之間宗門帳ニ右之通相認有之候上ハ、  
此ものハ無本寺と申募間敷儀ニ付、且女之分ハ寺内  
人別ニ不書加、清兵衛家内之人別ニいたし、并弟榮順を  
帳外ニいたし置候ニ付、実々村役人江申談候而も其分ニ  
いたし置候ハ、足山村庄屋忠右衛門兼帶いたし候節、  
同人江可申聞處、無其儀、高野山・御室御所并本照寺江<sup>六四ウ</sup>

罷越候砌、其度々村役人共江相届、書状迄差越<sup>由</sup>候申之  
儀も無證據、難取用、且玉林罷越候節之諸入用割合

方之儀、村役人共申立候趣、委細申聞、私欲之筋無之、勘定  
合無相違上ハ、可申立様無之由申之候ニ付、縦令幼年之  
節ニ候共、住職いたし候上者、寺附之印形手放申間敷處、  
村役人江預ケ置候段、不束之至、殊ニ大坂町奉行所江駈込訴  
いたし取上無之、御箱訴いたし候得共、訴状焼捨<sup>ニ成</sup>、  
重而御箱訴致間敷旨申渡有之候處、支配御代官江<sup>六四ウ</sup>

添簡之儀相願候而も取上無之候趣、無證據之儀取交、  
猶又兩度迄御箱訴いたし、疑を以、村役人私欲有之趣ニ  
申立候段、旁不埒之旨、吟味請、無申披不調法仕候由  
申之候、

元野村彦右衛門御代官所

當時武鳴左膳御代官所

備中国阿賀郡井尻村

〔六五ウ〕

皮多

真光坊

行 宣

寅四拾四歳

松平内蔵頭領分

備中国御野郡伊福村之内国守

皮多

常福寺

智 心

寅五拾歳

〔六五ウ〕

三浦志摩守領分

作劬真嶋郡垂水村

皮多

寶福寺

榮 順

寅貳拾三歳

此真光坊行宣・常福寺智心・宝福寺榮順儀

不念之筋相聞不申候間、無構旨可申渡候哉、

右之もの共吟味仕候処、備中國上房郡六名村皮多〔六六オ〕

古義真言宗大宝寺本寺ニ而、妻帯肉食不仕、代々

清僧弟子讓を以相續仕来、入院并年始ニハ大宝寺江祝銀

持参いたし候定例ニ有之、三ヶ寺共起立・開基・世代等之儀

相知不申、真光坊ハ坊号斗ニ而、寺号・山号無之、

寺院等之儀者見捨無年貢ニ而、拾七ヶ村皮多共之内

旦家有之、常福寺者山号無之、寺地ハ見捨無年貢

にて三拾ヶ村皮多共之内旦家有之、往古長福与申候処、

正徳二辰年ハ常福寺与寺号改候由ニ候得共、申傳而已ニ而、

委細不相知、寶福寺山号佛守山与唱、寺地ハ年貢地ニ而

拾六ヶ村皮多共之内ニ旦家有之由申之候、

板倉隠岐守領分

備中國上房郡六名村

皮多

増福寺

行 春

寅三拾五歳

〔六七オ〕

伊東伊豆守領分

同国下道郡辻田村

皮多

大圓坊

恵 心

寅七拾壹歳

此増福寺行春・大圓坊恵心儀不念之筋相聞

不申候間、無構旨可申渡候哉、

右之もの共吟味仕候処、無本寺古義真言宗にて、〔六七ウ〕

妻帯肉食不仕、代々清僧弟子讓を以相續仕来、起立・開基・

世代等之儀者相知不申、増福寺山号を當應山与唱、

寺地者見捨無年貢ニ而、三拾五ヶ村皮多共之内旦家

有之、大圓坊ハ坊号斗ニ而、寺号・山号無之、寺地之儀も

年貢地ニ而、貳拾九ヶ村皮多共之内旦家有之由申立候、

右真言宗皮多五ヶ寺江何方も改宗之儀申聞候もの無之、  
 尤是迄之通被差置、右被及御沙汰候共、又ハ何連之「六八オ」  
 寺院江附屬いたし下寺ニ相成、寺且共一向宗ハ勿論  
 何宗ニ改宗いたし候共、今般吟味之趣を以何様申付候共、  
 聊願筋無之由、一同申之候、

『一真言宗皮多大法寺・大宝寺并真光坊・常福寺・

寶福寺・増福寺・大圓坊、右七ヶ寺役法用取斗  
 方之儀、大法寺海順ハ宗派之教傳來不致候間、代々  
 地藏經・觀音經之縦名附を以讀覺候、常々寺務ハ「六八ウ」  
 勿論、死滅之もの有之節も、右兩經念佛之外無之、  
 引導・葬式、都而法用之儀曾而不相并由申之、大宝寺  
 宥仙ハ朝暮勤行、礼文理趣經・金胎兩部之礼懺・  
 三陀羅尼・七呪之陀羅尼・諸伽陀讚・回向十三佛・  
 祝真言・光明真言、死滅之もの有之節ハ引導書を以  
 取斗、諷誦文・称名陀羅尼、回向いたし、正・五・九月  
 旦家祈祷三者九條錫杖經・般若心經・同秘仁王經「六九オ」  
 般若經・同法則神祇講式・不動經・諸真言を唱候由申之、  
 外五ヶ寺少々、之差別有之候得共、宥仙申立  
 候趣ニ格別之儀無御座候、寺役法用取斗方同様ニ  
 有之、都而怪敷取斗方ハ相聞不申候得共、七ヶ寺共  
 何連之寺院江附屬いたし候儀も無之候ニ付、宗派  
 教傳來無之段ハ、海順申立候通無相違、大法寺斗ニ而ハ  
 無之、外六ヶ寺も同様ニ而、既ニ箱訴吟味書ニ申立「六九ウ」  
 候通、大寶寺・増福寺先住共之内ニハ妻帯も有之、

取アリ候儀ハ無御座候、』

元平岡彦兵衛當分御預ヶ所  
 當時森對馬守御預リ所  
 美作國吉野郡西田村

皮多

金龍寺

嘉順

『此嘉順病氣ニ付、代旦家皮多吉右衛門

罷出候付、嘉順八年附不仕候、』

「七〇オ」

土岐美濃守領分

同国英田郡川北村

皮多

本敬寺

永巡

寅四拾八歳

同人領分

同国勝北郡真可郡村

皮多

教福寺

泰隆

寅三拾五歳「七〇ウ」

松平越後守領分

同国東北條郡下高倉村

皮多

教本寺

了 意

寅六拾歳

此金龍寺嘉順・本敬寺永巡・教福寺泰隆・

教本寺了意儀、不念之筋も相聞

不申候間、無構旨可申渡候哉、

〔七二〇〕

右之もの共吟味仕候処、京都東本願寺塔頭金福寺

下寺与唱、一向宗ニ而、四ヶ寺共山号無之、起立・開基

呪与不相知、金龍寺之儀、享保五子年金福寺

取次を以、東本願寺江願之上、寺号相唱、寺地ハ見捨

無年貢ニ而、三ヶ村皮多共之内ニ旦家有之、本敬寺ハ

享保二酉年、右同様願之上寺号相唱、寺地ハ見捨

無年貢ニ而、八ヶ村皮多共之内ニ旦家有之、教福寺ハ〔七二一〕

貞享四卯年、同様願之上寺号相唱、寺地ハ年貢地ニ而、

拾式ヶ村皮多共之内ニ旦家有之、教本寺ハ年曆

不相知、凡七八拾年以前、是亦右同様願之上寺号

相唱、六ヶ村皮多共之内ニ旦家有之、且入院・年始并

本願寺ニおいて法事有之節ハ、凡銀五六匁ツ、金福寺

取次を以差出、宗法之儀ニ付觸書も金福寺ハ差越、

東本願寺普請修復入用も右入用高ニ應し、〔七二一〕

皮多寺并旦家より差出候儀ニ而、若相滞候得者、金福寺廻村いたし、皮多寺ニ止宿いたし取立、年々金福寺江秋初尾と唱、旦家宅軒ニ而米老升ツ、時之相場を以代銀ニ而取立、金福寺江差遣、西本願寺塔頭ニも金福寺と申有之、尤両金福寺共皮多ニハ無之、諸国皮多与一向宗之分ハ右両金福寺ニ附屬いたし、下寺と唱候由者及承候得共、委細者不存由申之候、〔七二二〕

松平越後守領分

作劬西西條郡圓宗寺村

皮多

九右衛門

寅五拾老歳

此九右衛門儀、不念之筋相聞不申候間、無構旨可申渡、

右之もの共吟味仕候処、同国津山城下西本願寺末

一向宗妙願寺塔頭養元寺旦家ニ候処、祖父九右衛門

節、年曆不相知、凡六七拾年以前、養元寺無住ニ成、〔七二三〕

同寺旦家之分妙願寺預リ且那ニ相成候処、皮多者

九右衛門宅人ニ付、同寺ハ領主役所江相願、夫より

以来道場元と唱、家内之宗判いたし来候得共、

旦家者無之、家内死滅之もの有之候節者

教本寺を相頼取置候得共、同寺旦家ニハ無之、



『一本文皮多九ヶ寺并九右衛門召連罷出候村役人共〔七三ウ〕

吟味仕候処、右之もの共申立候通無相違由申之候、

尤右村役人共ハ皮多ニハ無御座候、

皮多寺支配之儀、東本願寺輪番江相尋候処、

皮多寺之分支配申付候共、差支候儀無之旨申

之候、』

右野村彦右衛門・万年七郎右衛門吟味仕申聞候趣、書面之通ニ

御座候、豊前守江懸合、評議仕候処、是迄之通ニ而差置〔七四オ〕

候而者、宗門之儀不取アリ御座候、尤皮多寺之儀

慶長年中東本願寺江被下置候由之儀ハ難相知候得共、

作劬西町村金龍寺外三ヶ寺ハ東本願寺塔頭金福寺

下寺と唱、一向宗ニ御座候間、大法寺・大寶寺者

勿論、一件寺院之内、是迄真言宗与相覺候共、

真言宗ニ皮多寺ハ無之由ニ候上ハ、寺院并旦家之

皮多共一向宗ニ相成、寺院共ハ東本願寺塔頭

金福寺下寺ニ可相成旨、裁許仕、且作劬圓宗寺村

九右衛門儀道場元与唱候而ハ新寺ニ紛敷候間、一向宗

皮多寺之且那ニ可成旨、是亦裁許仕、其旨東本願寺

役僧江も可申渡候哉、御答之儀ハ黄紙附札を以奉伺候、

御渡被遊候御箱訴状式通返上仕候以上、

寅 月

御咎附書付

〔七五オ〕

桑原伊豫守

作劬大久保村皮多大法寺御箱訴

一件御咎附之儀

元平岡彦兵衛當分御預ヶ所

當時石原清左衛門御代官所

作劬久米北條郡久米川南村之内

大久保村皮多

大法寺

海

順  
〔七五ウ〕

右差當例相見不申候得共、村役人私欲有之趣ニ  
申立候段、品不宜候間、三十日押込与御咎附仕候、

『但、宗法之儀ニ付駈込訴御箱訴いたし候段も、本文之通

野村彦右衛門・万年七郎右衛門吟味詰申越候得共、宗

法之儀者取用ニ相成候故、黄紙科書ニハ相除申候、』

同村皮多

元庄屋

四郎右衛門

年寄  
〔七六オ〕

伊右衛門

百姓代

弥 四郎

右不束而已ニ御座候得共、宗門帳之儀を等閑ニ

いたし候間、差當例者不相見候得共、四郎右衛門ハ  
元庄屋之儀ニ付、過料錢五貫文、伊右衛門・  
弥四郎ハ右ニ准し、同三貫文ツ、と  
御咎附仕候、

〔七六ウ〕

以上

〔實月〕  
〔實月〕

〔七七オ〕

〔七七ウ〕

先達而野村彦右衛門、其方備中国在勤之節、  
吟味詰被相伺候作劬大久保村皮多大法寺  
御箱訴一件御咎之儀、左ニ申達候、

元平岡彦兵衛當分御預り所  
當時石原清左衛門御代官所  
作劬久米北條郡久米川南村  
之内

大久保村皮多

大法寺  
〔七八オ〕

海 順

右之もの儀、縦幼年之節ニ候共、住職いたし  
候上ハ、寺附之印形手放申間敷處、村役人江  
預ケ置段、不束之至、殊ニ無證據疑を以、不取  
バ儀を取交、村役人私欲有之趣ニ申立段、

旁不埒ニ付、押込、

但、日数三十日相立候ハ、差免可被申候、

〔七八ウ〕

同村

皮多

元庄屋

四郎右衛門

百姓代

弥 四 郎

右之もの共儀、人別帳外之もの村内ニ可差  
置筋無之間、縦榮順を入別帳ニ書入吳

〔七九オ〕

候様申聞候もの無之候共、大法寺先住貴法

忤ニ相違無之、まつ・かちも寺内ニ罷在候ハ、

取斗、支配役所江可相伺候、真言宗之名目ニ而

相済来、妻帯ニ而ハ齟齬いたし候逆、清僧与

申立、まつ・かちハ清兵衛家内之人別江

加ハ、榮順を帳外いたし置段、不埒ニ付、

四郎右衛門ハ過料錢五貫文、弥四郎ハ同三貫文

〔七九ウ〕

可被申付候、

年寄伊右衛門儀も同様不埒ニ付、存命候ハ、

過料錢三貫文可申付處、致病死ニ付、其旨

一件之もの共江可被申渡候、

板倉左近將監領分	備中国上房郡六名村	皮多	大宝寺	宥	〔八〇乙〕 仙	元野村彦右衛門御代官所 當時武嶋左膳御代官所 同国阿賀郡井尾村	皮多	真光坊	行	宣	松平内藏頭領分	備前国御野郡伊福寺村 之内国守〔八〇乙〕	皮多	常福寺	知	心	三浦備後守領分 作劔真嶋郡垂水村	皮多
----------	-----------	----	-----	---	------------	---------------------------------------	----	-----	---	---	---------	-------------------------	----	-----	---	---	---------------------	----

宝福寺	栄	順	〔八二乙〕	板倉左近將監領分	備中国上房郡六名村	皮多	増福寺	行	春	伊東政之助領分	同国下道郡辻田村	皮多	大圓坊	〔八一乙〕	恵	心	元平岡彦兵衛當分御預り所 當時森對馬守御預り所 作劔吉野郡西町村	皮多	金龍寺	嘉	順	土岐美濃守領分	同国英田郡川北村
-----	---	---	-------	----------	-----------	----	-----	---	---	---------	----------	----	-----	-------	---	---	--	----	-----	---	---	---------	----------

皮多 〔八二才〕	本敬寺	永 巡	同人領分	同国勝北郡真可部村	皮多	教福寺	泰 隆 〔八二才〕	松平越後守領分	同国東北條郡下高倉村	皮多	教本寺	了 意	同人領分	同国西條郡圓宗寺村	皮多	九右衛門 〔八三才〕	右之もの共ハ、不埒之筋も無之間、無構、其外 先達而吟味ニ付呼出候もの共も、一同無構間、 其旨一件之もの共可申通旨可被申 渡候、	
-------------	-----	-----	------	-----------	----	-----	--------------	---------	------------	----	-----	-----	------	-----------	----	---------------	--	--

一 皮多寺之儀、慶長年中、東本願寺江 被下置候由之儀者難相知得共、作易西町 村金龍寺外三ヶ寺者、東本願寺塔頭 金福寺下寺与唱、一向宗ニ候間、大法寺・ 大宝寺ハ勿論、一件寺院之内、是迄真言宗 与相寛候共、真言宗ニ皮多寺ハ無之由ニ候上ハ、 寺院并且方之皮多共一向宗ニ相成、寺院 ともハ東西本願寺塔頭金福寺〔下寺〕 可相成旨、裁許いたし、且作易圓宗寺村 九右衛門儀、道場元と唱候而ハ、新寺ニ紛敷間、 一向宗皮多寺之且那ニ可成旨、是又裁許 いたし、其方阿本願寺役僧江も可被相達候、 右之もの共、其方役所江呼出申渡、證文取之、 可被差出候過料錢者、三日之内取立、御勘定所江 可被相伺候、右者、伺之上、松周防守殿依御差圖 申達候、御咎除日書付、別紙遣候以上、 十一月 桑 伊豫守		〔八三才〕
万年七郎右衛門殿	御咎 除日 書付	〔八五才〕
		〔八五才〕

十二月

朔日 三日 四日 八日 十日 十二日  
十四日 十五日 十七日 廿日 廿二日 廿四日  
廿六日 廿八日 晦日

〔八六オ〕

卯

正月

十二日迄 十四日 十五日 十七日 廿日 廿二日  
廿三日 廿四日 廿六日 廿八日 廿九日

右之日限相除御咎可被申付事、

〔八六ウ〕

作劬大久保村皮多大法寺海順御箱訴一件并  
右同様之皮多寺糺一件御咎等申渡相濟候儀  
申上候書付

御届

万年七郎右衛門

野村彦右衛門・私備中國在勤之節、吟味詰  
奉伺置候、元平岡彦兵衛當分御預所、當時

石原清左衛門御代官所、作劬久米北條郡大久保村〔八七オ〕

皮多大法寺海順御箱訴一件、并右同様之

皮多寺糺一件、大坂鈴木町於私御役宅、

今廿七日御差圖之通申渡相濟申候、且

右申渡之趣、東西本願寺役僧江も申

達候、依之別紙諸證文式通、両本願寺

江之違書写相添申上候以上、

寅十二月廿七日

万年七郎右衛門

〔八七ウ〕

差上申一札之事

作劬大久保村皮多大法寺海順

御箱訴一件并右同様之皮多寺

被為遂御吟味、御伺之上、

桑原伊豫守様依御差圖、左之通

被仰渡候、

皮多寺之儀、慶長年中、東本願寺江

被下置候由之儀者、難相知候得共、作劬

西町村金龍寺外三ヶ寺ハ、東本願寺

塔頭金福寺下寺与唱、一向宗ニ候間、

大法寺・大寶寺ハ勿論、一件寺院

之内、是迄真言宗与相寛候共、

真言宗ニ皮多寺ハ無之由ニ候上者、

寺院并且方之皮多共一向宗ニ相成、

〔八八オ〕

〔八八ウ〕

寺院共ハ東西本願寺塔頭金福寺

等之下寺ニ可相成候、且作劬圓宗寺村

九右衛門儀、道場元与唱候而ハ、新寺ニ

紛數候間、一向宗皮多寺之旦那

可相成候、

海順儀、縦幼年之節ニ候とも住職

いたし候上者、寺附之印形手放

申間敷候処、村役人江預ケ置候段、

不束之至リ、殊ニ無證據疑を以、不取

儀を取交、村役人私欲有之趣ニ申立

候段、旁不埒ニ付、押込被仰付候、

四郎右衛門・弥四郎儀、人別帳外之もの

村内ニ可差置筋無之間、縦榮順を

人別帳ニ書入吳候様申聞候もの

無御座候共、大法寺先住貴法伴ニ相違

無之、まつ・かちも寺内ニ罷在候ハ、

取斗、御支配御役所江可相伺候候、

真言宗之名目ニ而相済来、『妻』帯

にてハ齟齬いたし候逆、清僧与

申立、まつ・かちハ清兵衛家内

人別江加、榮順を帳外ニいたし

置候段、不埒ニ付、四郎右衛門ハ過料錢

五貫文、弥四郎ハ同三貫文被仰付候、

然處四郎右衛門ハ病死仕候、

〔八九才〕

〔八九才〕

〔九〇才〕

但、過料錢三日之内、當御役所江可相納候、

一 伊右衛門儀も同様不埒ニ付、存命ニ候ハ、

過料錢三貫文可被仰付候、致病死候

に付、其旨可存候、

一 宥仙・行宣・知心・榮順・行春・恵正・

嘉順・永巡・泰隆・了意・九右衛門儀者、不埒

之筋も無之候間、御構無御座、其外

先達而御吟味ニ付、御呼出之もの共も

一同御構無御座候間、其旨可申通、

然ル処、榮順・行春・恵正・嘉順・了意ハ

病死仕候、

右被仰渡之趣、一同承知奉畏候、若相背

候ハ、重科可被仰付候、仍御請證文差上

申所如件、

〔九〇才〕

〔九一才〕

〔九一才〕

元平岡彦兵衛當分御預ケ所

當時石原清左衛門御代官所

作劬久米北條郡久米川南村之内

大久保村皮多

大法寺

海

同村皮多

元庄屋

順

天明二年寅十二月廿七日

病死 四郎右衛門  
百姓代弥四郎煩二付代  
善四郎  
〔九二才〕  
飯庄屋  
勘三郎  
板倉左近將監領分  
備中国上房郡六名村皮多  
大實寺  
有仙  
元野村彦右衛門御代官所  
當時武嶋左膳御代官所  
同国阿賀郡井尾村皮多  
真光坊  
行宣  
〔九二ウ〕  
松平内藏頭領分  
備前国御野郡伊福村之内  
国守皮多  
常福寺  
智心  
三浦備後守領分  
作劬真嶋郡垂水村皮多  
實福寺  
榮順病死二付  
宥司

右 知元  
〔九三才〕  
六名村皮多  
増福寺  
行春病死二付  
後住  
智道  
伊東政之助領分  
備中国下道郡辻田村皮多  
大圓坊  
恵心病死二付  
後住  
圭槩  
〔九三ウ〕  
元平岡彦兵衛當分御預ヶ所  
當時森對馬守御預り所  
作劬吉野郡西町村皮多  
金龍寺  
嘉順病死當時  
無住二付 旦家  
半次郎  
土岐正吉領分  
同国英田郡川北村皮多  
本敬寺

万年七郎右衛門様  
御役所

右同断  
永 巡  
〔九四才〕

同国勝北郡真可部村皮多

教福寺

泰 隆

松平越後守領分

同国東北條郡下高倉村皮多

教本寺

了意病死

後住恵吟煩二付代

庄 吉  
〔九四之〕

同人領分

同国西條郡圓宗寺村皮多

道場元

九右衛門煩二付代

同人甥

定 吉

定吉若年二付附添

罷出候

四郎兵衛

〔九五才〕

前書被仰渡之趣、私共儀も一同  
罷出奉承知候、依之奥書印形差上  
申候以上、

大久保村皮多召連罷出候

石原清左衛門御代官所

作劬久米北條郡足山村

庄屋忠右衛門煩二付代替

重 五 郎

〔九五之〕

六名村皮多召連罷出候

同村

庄屋喜右衛門煩二付代

栄 藏

年寄

常右衛門

井尾村皮多召連罷出候

同村

年寄

善 兵 衛

〔九六才〕

伊福村之内国守皮多召連罷出候

国守

庄屋



仙右衛門

垂水村皮多召連龍出候

同村

年寄

小次郎

辻田村皮多召連龍出候

同村

庄屋太右衛門煩二付代

七兵衛

〔九六ウ〕

西町村皮多召連龍出候

同村

庄屋三郎太夫煩二付代

善九郎

川北村皮多召連龍出候

同村

庄屋嘉右衛門煩二付代

新左衛門

真可部村皮多召連龍出候

同村

年寄

長九郎

〔九七オ〕

差上申一札之事

下高倉村皮多召連龍出候

同村

庄屋

忠助

圓宗寺村皮多召連龍出候

同村

庄屋

藤兵衛

〔九七ウ〕

皮多寺并道場元之儀被為遂御吟味

被遊御伺候処、皮多寺之儀、寺号有之

候分、俗躰二候共、寺持二而、俗名別段有之候

紛敷候間、法名を唱、道場元与唱候分ハ

新寺ニ紛敷候間、夫々皮多寺之旦那ニ

相成可申旨、

桑原伊豫守様依御差圖被仰渡之趣、

一同承知奉畏候、若相背候ハ、御科

可被仰付候、仍御請證文差上申所

如件、

元森對馬守御預ケ所

當時小堀數馬御代官所

〔九八ウ〕

〔九八オ〕

天明二年<sup>一七八二</sup> 寅十二月廿七日

播州多可郡東山村皮多

正福寺

宥司智正煩二付代

五郎右衛門

元平岡彦兵衛御代官所

當時當御支配所

播州加西郡野田皮多

正願寺

宥司圓警退寺

當時宥司正慶煩二付代

久四郎

右同断

同国同郡嶋皮多

光正寺

宗圓煩二付代

安右衛門

元平岡彦兵衛御代官所

當時牧野備中守領分

同国同郡西村之内谷口皮多

名称寺

慶長煩二付代 [九九七]

庄五郎

元平岡彦兵衛御代官所

當時内方鉄五郎御代官所

同国多可郡高岸皮多

浄福寺

宥司教專 病死當時

宥司祐仙煩二付代

善七

元平岡彦兵衛御代官所

當時小堀数馬御代官所

同国同郡上野皮多 [二〇〇七]

照光寺

忠右衛門

元平岡彦兵衛御代官所

當時内方鉄五郎御代官所

同国神西郡真弓村皮多

極楽寺

教悟事

九兵衛

右同断

但州朝来郡名田村之内伊由細工皮多

如来寺

壽

正 [一〇〇七]

右同断

同国同郡牧田岡村皮多

西方寺

道清事甚四郎病死悴

道清事

友次郎

右同断

同国氣多郡伊福村皮多

極樂寺

勘三郎

右同断

〔一〇一才〕

同国養父郡吉井村皮多

安養寺

権四郎

右同断

同国同郡網場村皮多

安樂寺

源右衛門

右同断

同国同郡町村皮多

道場元

慶園事半三郎煩二付代悴

惣七

右同断

同国同郡三宅村皮多

道場元

長兵衛

右同断

同国同郡下八木村皮多

道場元

佐右衛門煩二付代悴

新右衛門

右同断

同国出石郡木村皮多

道場元 〔一〇二才〕

仁兵衛病死二付悴

仁兵衛

右同断

播州多可郡豊部皮多

道場元

又右衛門病死二付悴

又四郎

右同断

同国同郡杉原皮多

道場元 〔一〇二才〕

五左衛門煩二付代

太助

土井大炊頭領分

同国同郡前嶋村皮多

西福寺

宥司了證退寺

當時無住二付旦家

嘉 兵 衛

川窪左太夫知行

丹波国何鹿郡私市村皮多

安樂寺 [一〇三才]

知 好

万年七郎右衛門様

御 役 所

前書被仰渡之趣、私共儀も一同罷出、奉  
承知候、依之奥書印形差上申候以上、

[一〇三才]

東山皮多召連罷出候

小堀数馬御代官所

播州多可郡田野口村

庄屋

吉 太 夫

野田皮多召連罷出候

當御支配所

同国加西郡野条村

庄屋儀右衛門煩二付代

喜

六

嶋皮多召連罷出候

右同断 [一〇四才]

同国同郡東笠原村

庄屋利右衛門煩二付代

久左衛門

中西村之内谷口皮多召連罷出候

中西村

年寄

武右衛門

高岸皮多召連罷出候

内方鉄五郎御代官所

同国多可郡中村町

庄屋

次郎兵衛

上野皮多召連罷出候 [一〇四才]

小堀数馬御代官所

同国同郡塚口新田

庄屋

太左衛門

真弓村皮多召連罷出候

同村

庄屋

石田村之内伊由細工皮多召連罷出候  
佐次郎  
石田村  
庄屋  
又  
〔一〇五才〕  
牧田岡村皮多召連罷出候  
同村  
年寄  
嘉重郎  
伊福村皮多召連罷出候  
同村  
年寄  
久兵衛  
吉井村皮多召連罷出候  
同村  
年寄  
市郎兵衛  
〔一〇五才〕  
網場村皮多召連罷出候  
同村  
年寄  
友右衛門  
町村皮多召連罷出候

同村  
庄屋  
市郎右衛門  
三宅村皮多召連罷出候  
同村  
庄屋  
源右衛門  
〔一〇六才〕  
八木村皮多召連罷出候  
同村  
庄屋  
源左衛門  
〔一〇六才〕  
木村皮多召連罷出候  
同村  
年寄  
次郎右衛門  
豐部皮多召連罷出候  
内方鉄五郎御代官所  
同国同郡豐部村  
年寄  
源  
〔一〇六才〕  
杉原皮多召連罷出候  
右同断  
同国同郡同村

『大正  
卯正月十九日』

周防守殿江御直 伊豫守上ル』

作劬大久保村皮多大法寺御箱訴  
一件申渡相済候儀申上候書付

御 届

桑原伊豫守

庄屋

藤 次 郎

私市村皮多召連罷出候

同村

庄屋

次左衛門

前嶋皮多召連罷出候

同村皮多

庄屋

庄 兵 衛

小堀数馬御代官所

〔一〇七才〕

播州多可郡上野皮多

庄屋

新右衛門

〔一〇七才〕

三十日押込

元平岡彦兵衛當分御預ヶ所  
當時石原清左衛門御代官所  
作劬久米北條郡久米川南村  
之内

〔一〇八才〕

大久保村皮多

大 法 寺

海 順

海順耳不通ニ付差添罷出候

同人兄

同村皮多

喜 兵 次

御箱訴狀ニ認候名前之もの共

同村

〔一〇八才〕

皮多

元庄屋

四郎右衛門

過料五貫文

存命ニ候得者

過料三貫文

病死

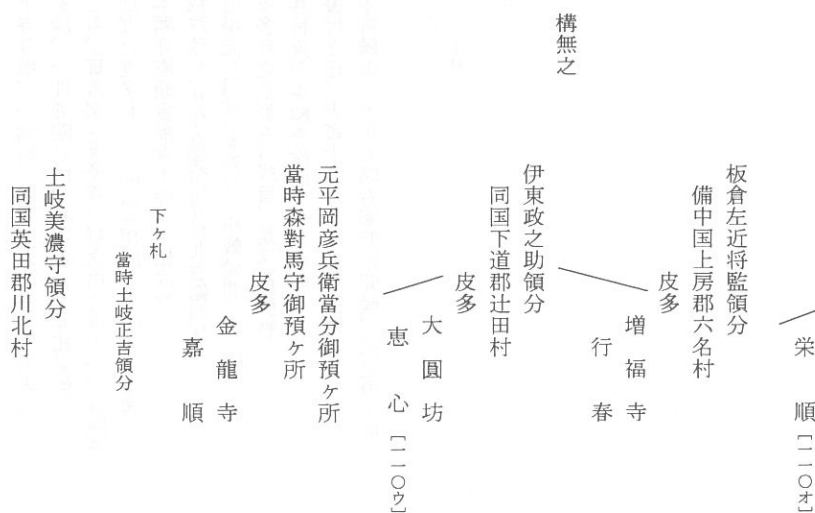
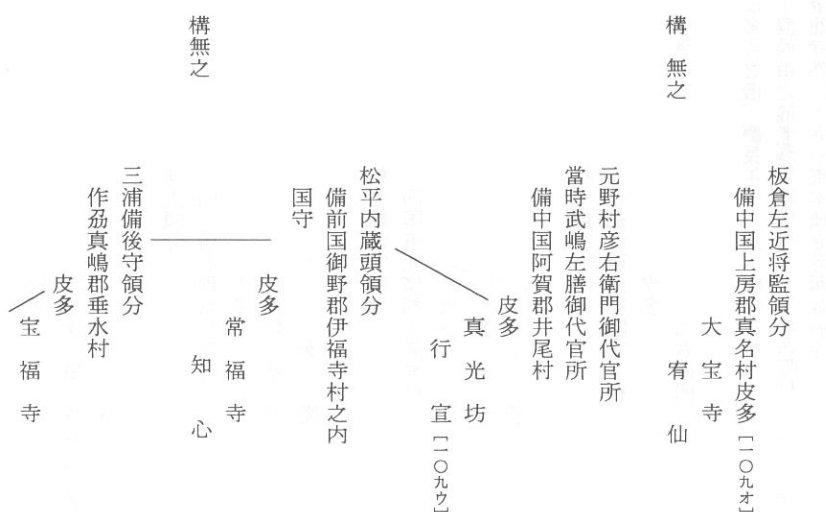
年 寄

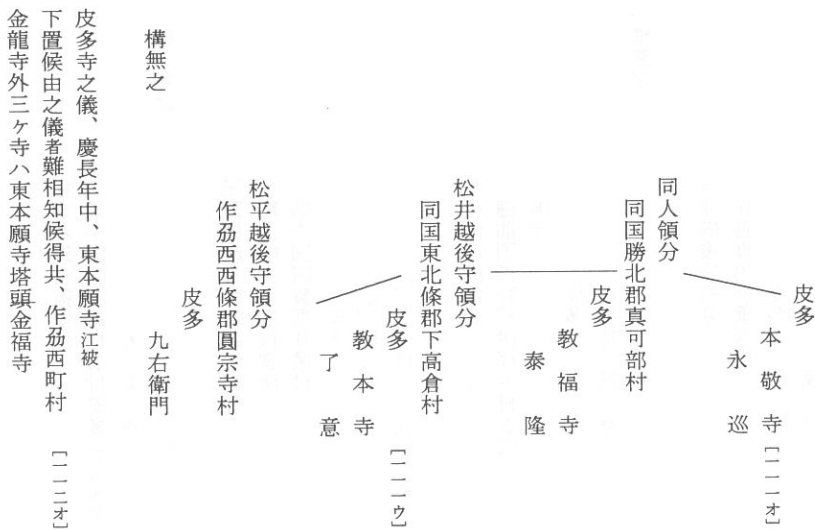
伊右衛門

百姓代

過料三貫文

弥 四 郎





下寺与唱、一向宗二候間、大法寺・大宝寺ハ勿論、一件寺院之内、是迄真言宗与相見候とも、真言宗ニ皮多寺ハ無之由ニ候上ハ、寺院并且方之皮多共、一向宗ニ相成、寺院共ハ東西本願寺塔頭金福寺下寺ニ可相成旨、裁許致し、且作劔圓宗寺村九右衛門儀、道場元与唱候而者新寺ニ紛敷候間、一向宗皮多寺之旦那ニ可成旨、是又裁許致し、其旨東西本願寺役僧江も申渡候、右御書付之通、去寅十二月廿七日於彼地申渡相濟候由、万年七郎右衛門申聞候、依之申上候、以上、

卯  
正月

「二三才」